

研究課題 (テーマ)	都道府県型保健所保健師による市町村への災害時難病患者 個別避難計画作成にかかる支援の視点と認識		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	助教	高橋 明日香
分担者		准教授	佐伯 和子
		教授	越田 美穂子
研究結果の概要			
<p><b>【背景・目的】</b></p> <p>昨今、災害が頻発しており、命を守る方策の1つとして個別避難計画の作成がある。難病療養者における計画作成には、都道府県保健師と市町村担当者が連携し個別性のある計画を作成することが重要である。そこで、本研究では、都道府県型保健所保健師が市町村と協働して計画作成の際の示唆を得るために、保健所保健師による市町村への難病患者の災害対策に関する計画作成にかかる視点を明らかにすることを目的に質的記述的研究を実施した。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>難病患者の災害対策に関する計画を市町村と作成した経験がある保健師または作成を試みた A 県保健所保健師を対象とし、インタビュー調査を行った。</p> <p>インタビュー内容は、計画作成における困難さ、工夫、市町村との計画作成促進の課題、都道府県保健師の役割などである。許可を得て録音し逐語録を作成し、事例ごとにコード化した。その後、保健所保健師が市町村と計画を作成する際の視点に関する部分を切り取り、コードからサブカテゴリとカテゴリを生成し、抽象度を高めていった。</p> <p>本研究は、富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査の承認を受けている。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>研究協力者は保健師 8 名であり、全員女性で、経験年数は 4～35 年であった。半構造化面接を対面で行い、インタビュー時間は 1 人につき 1 時間程度であった。</p> <p>分析の結果、保健所保健師がとらえる市町村への難病患者の災害対策に関する計画作成にかかる支援の視点として、以下の 3 つの大きな視点が抽出された。</p> <p><b>1) 難病患者の療養生活と保健師の支援の視点</b></p> <p>この視点は、保健所保健師が市町村と協働して計画を作成する以前に、専門職として難病患者の生活を捉え計画を作成する際に持つ視点であり、6 つのカテゴリが抽出された。</p> <p><b>2) 市町村が難病患者の個別避難計画を立てる際にもつ特性への視点</b></p> <p>この視点は、保健所保健師が市町村と協働して計画を作成する際に、保健所保健師が市町村の実態に対して持つ視点であり、3 つのカテゴリが抽出された。</p> <p><b>3) 個別避難計画の制度や体制がもつ特性への視点</b></p> <p>この視点は、保健所保健師が市町村と協働して計画を作成する際に、保健所保健師が制度や、県と市町村との関係の在り方に対して持つ視点であり、3 つのカテゴリが抽出された。</p> <p><b>【結論】</b></p> <p>難病患者の個別避難計画作成の協働には、難病患者への支援そのものが含む課題性に加え、行政組織や制度が持つ課題性が含まれていることが明らかになった。</p>			
今後の展開			
学術学会誌に論文投稿予定である。			